

鑑賞ポイント：茶室「掬月亭」と飛来峰

茶室「掬月亭」と人工の丘である飛来峰は、栗林公園で最も美しい景観の 2 つです。前者は 1600 年代初頭に建てられた茅葺き屋根の建物で、庭園を設けた高松藩の大名が江戸時代（1603 年～1867 年）に使用していました。この茶室は南池の近くにあり、四方から入ることができるように建てられた四方正面の造りが特徴的です。池に一番近い部屋、掬月の間の畳から、ある角度で水を眺めると、水面に浮かんでいるような印象を抱きます。丁寧に造られた眺めを四方八方に一望できることに加え、掬月亭は天井の低さと壁の少なさから、夏は涼しく気持ちの良い場所になっています。地面に近い茶室からの眺望は、公園の最高地点である飛来峰（南池の東側にあります）からの眺望とは対照的です。飛来峰は富士山に似せて形作られており、池、偃月橋(弓形の月の意)、掬月亭、そして背景に浮かぶ遠くの紫雲山を眺めることができます。池を滑る古風な遊覧船が景色に趣を添えます。